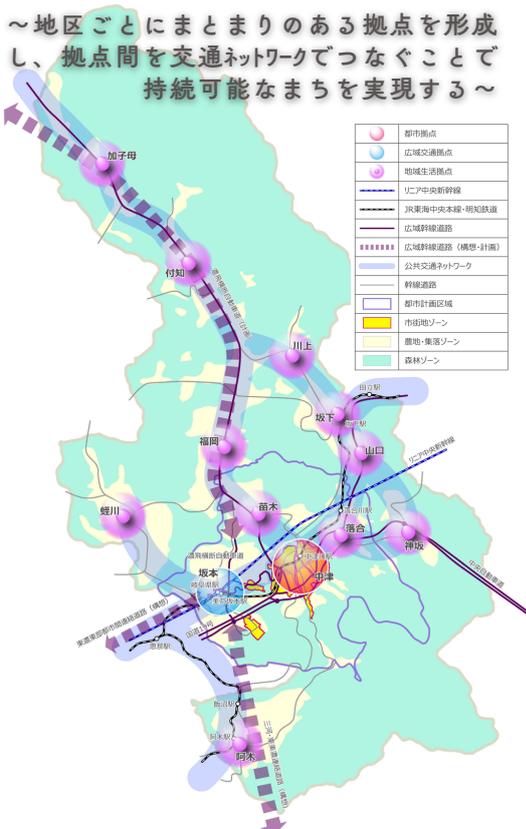


目指すまちの姿

多拠点ネットワークによる 集約型都市構造

～地区ごとにまとまりのある拠点を形成し、拠点間を交通ネットワークでつなぐことで持続可能なまちを実現する～

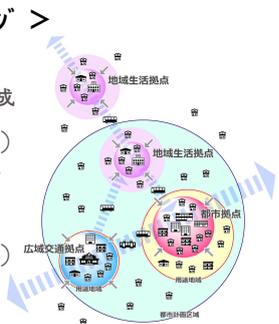


< 都市構造のイメージ >

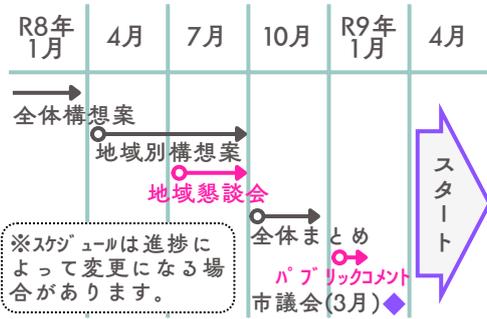
都市拠点（中津地区）
→ 都市的サービス施設の誘導や
周辺拠点との交通網を形成

広域交通拠点（坂本地区）
→ 交通結節機能を整備し、
居住や都市機能を誘導

地域生活拠点
（中津・坂本以外の地区）
→ 日常生活を支えるサービスや
心労、都市拠点への
公共交通を維持



今後の予定



都市計画へのご意見をお寄せください。

※二次元コードから、または電話・メールでお寄せください。



都市計画課 ☎66-1111(内線205)

✉ toshi@city.nakatsugawa.lg.jp

中津川市からの お知らせ



新しい都市計画 マスタープランを 策定しています。

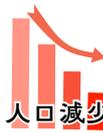
都市計画マスタープランとは…
将来のまちをもっと住みやすくするための、土地の利用のしかたや道路・交通、文化、自然環境など、まちづくりの方向性について書かれた「まちづくりの基本計画」です。

令和8年2月

まちの現状

人口

- 人口減、世帯数増、高齢人口増
- 坂本地区のみ人口増加傾向
- 中心市街地の居住人口密度減



産業

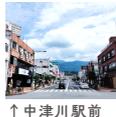
- 事業所・従業員は中心市街地や中核工業団地に集中
- 分野別では製造業、小売業が多い
- 市内移動は中津地区への移動が最多
- 市外移動は恵那市が最多
- 移動手段は圧倒的に自動車
- 鉄道・バスは利用回復傾向
- 公共交通維持のため補助金を支出



人流・交通

土地利用

- 山林、農地など自然的土地利用(約90%)が多い
- 区画整理事業や道路整備などのリニア関連事業が進められている



地域資源

- 歴史・自然・文化に根ざした特色ある地域資源が全域に分布



自然災害

- 観光入込客数は回復傾向
- 南海トラフ地震のほか浸水や土砂災害による被害が想定される

財政

- 市民一人当たりの公共施設ストック量は横ばい(道路・下水道は増加)

まちづくりの課題

課題① 人口減少に対応した集約型都市構造の構築

- 買い物や医療など生活サービスの提供圏内の人口が少ないため、維持・存続が難しい
- 公共交通の利便性と採算性が低い

課題② リニアを活かした産業の振興・雇用の創出

- 進学や就職などによる転出超過が続いている
- リニア関連の立地の優位性をまちづくりに活かす必要がある

課題③ 地域資源を活かした魅力・活力の創出

- 地域資源の保全の担い手を守り育てる
- 国内外からの関心・関与・来訪を更に高める

課題④ 災害に強い、安全・安心な暮らしの確保

- 想定規模以上の災害が全国的に発生している
- 防災・減災に加え、被災した場合でも早期に復旧できる体制づくりが求められる

課題⑤ 持続可能な都市経営の確立

- 道路・上下水道などインフラ老朽化が進行している
- 公共施設やインフラの維持費用が財政を圧迫

まちづくりの目標

生活サービスや公共交通の利便性が高く、暮らしやすいまちづくり

- 身近な暮らしを支える生活圏の形成
- 利便性の高い地域公共交通の充実

自動運転バス(実証実験中)→



地域経済を支える産業活動が盛んで、多様な人材が集まるまちづくり

- 企業誘致・雇用創出の推進
- リニア関連事業の推進

中津川西部テクノパーク→



豊かで魅力ある自然・歴史・文化を礎とした、賑わいのあるまちづくり

- 地域の個性を活かしたまち並みの形成
- 広域観光の推進

災害への強さとしなやかさを備えた、安心して暮らすことのできるまちづくり

- ハート・ツタの連携による防災・減災対策
- 想定最大レベルの災害への備え

適切な公共サービスの提供と安定した財政運営を両立したまちづくり

- 都市経営視点からのストックマネジメントの推進
- 人口規模に応じたストックの再編・最適化